

《文しょうもんだい12》

【れいだい】

つぎの文を読んで答えましょう。

「いそがないと雨がふりそうだ。」

ケンタは学校帰りの道をいそいでいます。

「ケンタ、かさをもっていきなさい。今日は雨がふりそうよ。」

せっかく朝、お母さんが言っていたのに、まだ晴れているからと、ケンタはかさをもちだすに出かけたのです。

「ママの言ったとおりだ。かさ、もってくればよかったな。そうすれば、こんなにあわてなくてよかったのに。それにしても、いつもはかさのことなんか言わないのに、どうして今日だけ言ったんだろう。」

ケンタは走りながら考えました。

やがてポツリポツリと雨がふり出しました。でも、家はもうすぐです。大いそぎで家につくと、げんかんにお母さんがまっついていて、わらいながら言いました。

「ほら、言ったとおりでしょう。」

「本当。ママの言うとおりだった。でも、どうして今日、雨がふるって分かったの。」

ケンタは聞いてみました。

「分かったわけじゃないんだけどね。きのう、いなかのおじいちゃんに、春休みにあそびに行くよって電話したの。そのとき、おじいちゃんは雨がふっているよって言ってたんだ。おじいちゃんのことろで雨がふると、つぎの日ぐらいに、このへんでも雨がふること、多いのよ。」

と、お母さん。

「へえ、そうなんだ。雨はおじいちゃんの町の方からやってくるんだね。そんなこと、考えたことなかった。」

と、ケンタ。

「かならずってわけじゃないんだけどね。それでも、天気は西から東にうつてくることが多いのよ。おじいちゃんの家は、ケンタの家より西にあるでしょう。西の方から天気がうつてくるっていうのは、おかしの人も知ってたのよ。」

と、お母さん。

「ママもおかしの人も、もの知りだ。」

ケンタは思いました。

(1) お母さんが「雨がふりそう。」と言ったのに、ケンタがかさをもたずに学校に出かけたのはなぜですか。

(2) 雨がふり出したのは、ケンタが家につく前で
すか、それともついた後ですか。

(3) お母さんは、ケンタを出わかえたときになん
と言いましたか。

(4) お母さんが、雨がふりそうだと思ったのはな
ぜですか。()に当てはまることばを書きま
しょう。

()が()で、()と言っていたから。

(5) お母さんは、天気はどこからどこにうつつて
くることが多いと言いましたか。

【答え】

(1) (朝はまだ)晴れていたから

(2) つく前

(3) ほら、言ったとおりでしょう。

(4) おじいちゃん、電話、(むこうは)雨がふって
いる

(5) 西から東

【せつ明】

文の中に、つぎのように書いてあります。

(1) まだ晴れているからと、ケンタはかさをもた
ずに出かけたのです。

(2) やがてポツリポツリと雨がふり出しました。
でも、家はもうすぐです。

(3) げんかんにお母さんがまっついていて、わらいな
がら言いました。「ほら、言ったとおりでしょ
う。」

(4) キのう、いなかのおじいちゃんに、春休みに
あそびに行くよって電話したの。そのとき、む
こうは雨がふっているよって言ってたんだ。

(5) 天気は西から東にうつつてくることが多い
のよ。

つぎの文を読んで答えましょう。

「台風が近づいています。今日から明日にかけて、大雨や強い風にちゅういしてください。」

テレビで言っています。

ケンタは、「台風って雨も風もすごくて、ちよつとかっこいいな。」と思います。木が大きくゆれるし、雨がたくさんふると、道に小さな川ができたみたいになります。台風が来ると、少しどきどきするのです。

「そうだよね。お父さんも子どものころ、台風が来ると、ちよつとどきどきしていたよ。」

と、お父さん。

「あるとき、すごい台風が来て、小学校が休校になったことがあって、家の中から外をずっと見てたんだ。いつもちがう外のようにすは、なんだがちがうところに来たみたいに思えてねえ。ときどき雨がシャワーみたいにふって、にわに水がたまって池みたいだった。」

ケンタはむちゅうになってお父さんの話を聞いています。

「そのまま夜になって、朝おきたらまっ青な空。すごくいい天気だったから、外に出てみると、となりののはたけのまん中から、水がながれてる。」

「え、どういうこと。」

「はたけの地めんの下から、水がふき出していたんだね。雨がっぱいふりすぎて、地めんの下の水があふれたってこと。そんなことってあるのって、思うだろう。でも、あったんだ。まあ、その一どだけだったけどね。そんなことは。」

「ほんとにすごい台風だったんだね。」

「そうだね。そして、家から学校に行く道を歩いてみて、またまたびっくり。」

「どうしたの。」

「どちゅうのはしがながされていて、むこうにわたれなくなってた。はしがながされたのも、そのときだけだったなあ。」

(1) テレビでは、台風たいふうが来るので何なにに気きをつけるように言いっていますか。

(2) ケンタは台風たいふうのことをどんなふうにおもいますか。

(3) ケンタのお父とうさんも子こどものころ、台風たいふうが来くるとケンタと同じようにかんじていました。どのようなかんじていましたか。

(4) お父とうさんの話はなしている「すごい台風たいふう」がすぎたつぎの日ひの朝あさ、天気てんきはどんなようすでしたか。
() に当あてはまることばを書かきましよう。
空そらがまっ青さおで、() 天気てんきだった。

(5) お父とうさんが、台風たいふうのつぎの日ひに家いえから学校がっこうに行いく道みちのとちゅうで見たみたものはなんですか。
() に当あてはまることばを書かきましよう。
とちゅうのはしが() いた。

つぎの文を読んで答えましょう。

きのうから、雨がずっとふっています。

「早く雨がやまないかな。やんだら外に出て、みんなドッチボールをしたり、野きゅうをしたりできるのに。それに、かさをさすのもたいへんだ。」

外であそべないので、ケントは少しいくつになっ
てきました。

「ケントは雨がやむの、まちきれないみたいね。
ホットケーキやいたから、食べなさい。」

お母さんの声が聞こえてきました。

「やった、おやつだ。」

ケントは雨のことはわすれて、おやつを食べはじ
めました。

「雨が早くやんでほしいって、ケントが思うのは
わかるわよ。でも、雨だって大切な。雨がずつ
とふらないと、水道の水も出なくなっちゃう。」

「え、そうなの。」

「そうよ。そうになったらごはんも作れないし、せ
んたくもできない。お風呂にも入れないし、ト

イレにもね。」

「それじゃあ、こまるね。雨も大切なんだ。」

「それだけじゃないのよ。晴れた日がずつとつづ
くと、地めんがかわいてくるでしょう。そうす
ると、にわの花や草や木は元気がなくなってく
るの。そんなとき、ママは、早く雨がふらない
かなあつて思うんだ。」

「へえ、そうなんだ。」

「そうして雨がふったときは、花も木もみんな、
とっても元気で、うれしそうにしているように見
えるのよ。だから、雨は元気のもとなの。」

お母さんの話を聞いて、ケントは「雨でもいいこ
とあるんだな。」と思いました。これからは雨の日
が少し楽しくなりそうです。

(1) ケンタは、雨がふっていると何がたいへんだ
とおも
思っていますか。()に当てはまることば
を書きましよう。

() こと

(2) 今日のおやつにお母さんが作ってくれたもの
きよう
はなんですか。

(3) お母さんが、「雨がずっとふらないと出な
かあ
なってこまる。」と言っているものはなん
であ
で
ですか。

(4) 晴れの日がつづいて地めんがかわいてくると、
ひ
なんの元気がなくなるとお母さんは言
げんき
かあ
っていますか。

(5) 晴れの日がつづいた後で雨がふったとき、お
は
母さんは花や木がどんな気もちになっ
かあ
はな
き
てい
うに見え
み
言っていますか。()に当て
い
は
まることばを書きましよう。

元気で()している。
げんき

つぎの文を読んで答えましょう。

「台風が近づいています。今日から明日にかけて、大雨や強い風にちゅういしてください。」

テレビで言っています。

ケンタは、「台風って雨も風もすごくて、ちよつとかっこいいな。」と思います。木が大きくゆれるし、雨がたくさんふると、道に小さな川ができたみたいになります。台風が来ると、少しどきどきするのです。

「そうだよね。お父さんも子どものころ、台風が来ると、なぜかどきどきしていたよ。」

と、お父さん。

「あるとき、すごい台風が来て、小学校が休校になったことがあって、家の中から外をずっと見てたんだ。いつもちがう外のようにすは、なんだがちがうところに来たみたいに思えてねえ。ときどき雨がシャワーみたいにあふって、にわに水がたまつて池みたいだった。」

ケンタはむちゅうになってお父さんの話を聞いています。

「そのまま夜になって、朝おきたらまっ青な空。すごくいい天気だったから、外に出てみると、となりののはたけのまん中から、水がながれてる。」

「え、どういうこと。」

「はたけの地めんの下から、水がふき出していたんだね。雨がっぱいふりすぎて、地めん下の水があふれたってこと。そんなことってあるのって、思うだろう。でも、あったんだ。まあ、その一どだけだったけどね。そんなことは。」

「ほんとにすごい台風だったんだね。」

「そうだね。そして、家から学校に行く道を歩いてみて、またまたびっくり。」

「どうしたの。」

「どちゅうのはしがながされていて、むこうにわたれなくなってた。はしがながされたのも、そのときだけだったなあ。」

(1) テレビでは、台風たいふうが来くるので大雨おおあめと何なにに気きをつけるように言いっていますか。

(2) ケンタは、台風たいふうが来くるとどんな気きもちになりますか。

(3) お父とうさんの話はなしている「すごい台風たいふう」が来きたと
き、強い雨つよあめのようすはどんなふうでしたか。
() に当あてはまることばを書かきましよう。

() のようにふった。

(4) お父とうさんの話はなしを聞きいているケンタは、どんなようすですか。() に当あてはまることばを書かきましよう。

() になっている。

(5) お父とうさんが、台風たいふうのつぎの日ひに家いえから学校がっこうに行いく道みちのとちゅうで見たみたものはなんですか。
() に当あてはまることばを書かきましよう。

とちゅうの() がながされていた。

つぎの文を読んで答えましょう。

きのうから、雨がずっとふっています。

「早く雨がやまないかな。やんだら外に出て、みんなドッチボールをしたり、野きゅうをしたりできるのに。それに、かさをさすのもたいへんだ。」

外であそべないので、ケントは少しいくつになっ
てきました。

「ケントは雨がやむの、まちきれないみたいね。
クッキーやいたから、食べなさい。」

お母さんの声が聞こえてきました。

「やった、おやつだ。」

ケントは雨のことはわすれて、クッキーを食べは
じめました。

「雨が早くやんでほしいって、ケントが思うのは
わかるわよ。でも、雨だって大切な。雨がずつ
とふらないと、水道の水も出なくなっちゃう。」

「え、そうなの。」

「そうよ。そうになったらごはんも作れないし、せ
んたくもできない。お風呂にも入れないし、ト

イレにもね。」

「それじゃあ、こまるね。雨も大切なんだ。」

「それだけじゃないのよ。晴れた日がずつとつづ
くと、地めんがかわいてくるでしょう。そうす
ると、にわの花や草や木は元気がなくなってく
るの。そんなとき、ママは、早く雨がふらない
かなあつて思うんだ。」

「へえ、そうなんだ。」

「そうして雨がふったときは、花も木もみんな、
とっても元気で、うれしそうにしているように見
えるのよ。だから、雨は元気のもとなの。」

お母さんの話を聞いて、ケントは「雨でもいいこ
とあるんだな。」と思いました。これからは雨の日
が少し楽しくなりそうです。

(1) ケンタは、雨がやんだら何ができるとおもっていますか。()に当てはまることを書きましよう。

野きゅうや()

(2) 今日のおやつにお母さんが作ってくれたものはなんですか。

(3) お母さんは、水道の水が出なくなると、何が作れなくなると言っていますか。

(4) 晴れの日がつづくと、花などの元気がなくなるのは、地めんがどうなるからですか。

(5) 晴れの日がつづいた後で雨がふったとき、お母さんは花や木がどんな気もちになっているように見えると言っていますか。()に当てはまることを書きましよう。

()で、うれしそうにしている。



つぎの文を読んで答えましょう。

雨がふりつづいて、ケンタの家の近くの川には、茶色くにごった水が、ものすごいいきおいでながれています。山からながされてきたのか、ときどき大きな木のえだがながれていきます。

「おじいちゃんが言っていたんだけど、むかしは、はしがよくながされて、たいへんだったんだって。」ケンタのお父さんが言いました。

「はしのすぐよこに、古いはしのあとがのこっているよね。あそこにあったはしは、むかしながされて、今の場しよにかけかえたらしい。今のはしも、お父さんが子どものころ、一どながされたんだよ。」

「はしがながされたら、どこにも行けなくなるんじゃないの。」

ケンタはお父さんに聞きました。このはしは、ケンタの町から外につながる、ただ一つのはしなのです。

「そうなんだ。川の水が少なくなるまで、どこにも行けなかった。水が引いて、ブルドーザーで

かりの道をつくって、そこにかりのはしをかけたんだ。しばらくはそこを通っていたんだよ。なんだかなつかしいなあ。」

「今ふってる雨はだいじょうぶかなあ。」

「直した後、もう三十年ぐらいはながされていないし、そんなにかんたんにはながされないと思うよ。ゆだんはできないけどね。」

ケンタは、はしが心ぱいになってきました。天気よほうでは、雨は夜にはやむそうです。

「はしがながされませんように。」

ケンタはまどからはしを見つめながら、いのりしました。

(一) ケンタの家の近くの川の水はどんなようすですか。() に当てはまることばを書きましよう。

() 水が、ものすごいいきおいでながれている。



(2) 今^{いま}のはしがながされたのはいつごろですか。

() に当てはまることばを書きましよう。

おとうさんが ()

(3) 「はしがながされたら、どこにも行けなくなるんじゃないの。」とケンタが言ったのはなぜですか。() に当てはまることばを書きましよう。

そのはしは、ケンタの町^{まち}から外^{そと}につながる

() はしだから。

(4) お父^{とう}さんが子^こどものころにはしがながされたとき、川^{かわ}の水^{みず}が引^ひいてからブルドーザーでつくったものはなんてしたか。

くったものはなんてしたか。

(5) ケンタは、はしを見^みつめながら、何^{なに}をいのりましたか。() に当てはまることばを書きましよう。

() こと



つぎの文を読んで答えましょう。

雨がふりつづいて、ケンタの家の近くの川には、茶色くにぐった水が、ものすごいいきおいでながれています。山からながされてきたのか、ときどき大きな木のえだがながれていきます。

「おじいちゃんが言っていたんだけど、むかしは、はしがよくながされて、たいへんだったんだって。」
ケンタのお父さんが言いました。

「はしのすぐよこに、古いはしのあとがのこっているよね。あそこにあったはしは、むかしながされて、今の場しよにかけかえたらしい。今のはしも、お父さんが子どものころ、一どながされたんだよ。」

「はしがながされたら、どこにも行けなくなるんじゃないの。」

ケンタはお父さんに聞きました。このはしは、ケンタの町から外につながる、ただ一つのはしなのです。

「そうなんだ。川の水が少なくなるまで、どこにも行けなかった。水が引いて、ブルドーザーで

かりの道をつくって、そこにかりのはしをかけたんだ。しばらくはそこを通っていたんだよ。なんだかなつかしいなあ。」

「今ふってる雨はだいじょうぶかなあ。」

「直した後、もう三十年ぐらいはながされていないし、そんなにかんたんにはながされないと思うよ。ゆだんはできないけどね。」

ケンタは、はしが心ぱいになってきました。天気よほうでは、雨は夜にはやむそうです。

「はしがながされませんように。」

ケンタはまどからはしを見つめながら、いのりしました。

(一) ケンタの家の近くの川の水はどんなようですか。() に当てはまることばを書きましょう。

茶色くにぐった水が、() でながれている。



(2) 今のはしがながされたのはいつごろですか。

() に当てはまることばを書きましよう。

() が子どものころ

(3) 「はしがながされたら、どこにも行けなくなるんじゃないの。」とケンタが言ったのはなぜですか。() に当てはまることばを書きましよう。

そのはしは、ケンタの() につながるただ一つのはしだから。

(4) お父さんが子どものころにはしがながされた

とき、川の水が引いてからつくったものは、か
りの道と、もう一つはなんですか。

(5) 天気よほうでは、雨はいつやむと言っ
ていますか。